

研究主題

主体的に問いを見出し，自己探究を通して，資質・能力の向上を図る
～探究は自分の生活の中に～

福山市立一ツ橋中学校区

(一ツ橋中学校，引野小学校，長浜小学校)

3年間の取組のまとめ

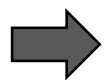
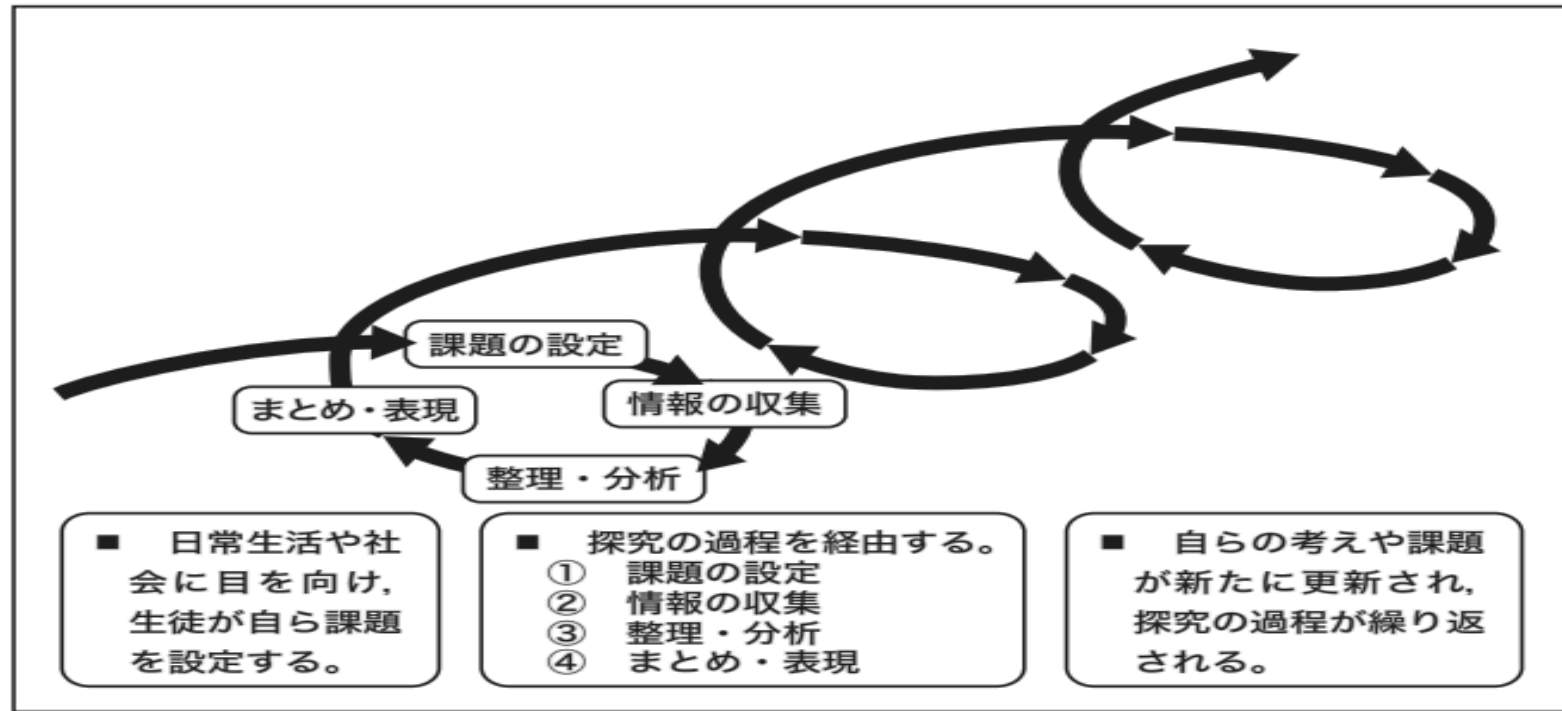
- 探究のプロセス（探究サイクルを意識した学習活動）
- 教師のファシリテート
- 資質・能力の育成（ルーブリックの作成）
- 探究的な学習を意識した単元開発

探究的な学習の在り方



探究的な学習とはどうすればよいのか？

探究における生徒の学習の姿



具体的なイメージを持つためには、児童生徒の具体的な姿を設定する必要がある。

探究のプロセス

探究サイクルを意識した学習

なぜ？どうして？ **課題の設定**

- ・子どもと教材との出会いを大切にする
- ・体験活動等を通して、課題意識をもつ

→子どもの課題に対する意識のズレや疑問を自身の課題に繋げる支援

夢中になれる、主体的な **情報の収集**

- ・体験を通じた感覚的な情報収集
- ・ICTを活用した情報収集

→子どもの「知りたい」などの主体性を引き出す支援

もっと知りたい！ **まとめ・表現**

- ・まとめは相手意識、目的意識を明確に
- ・各教科で身に付けた表現方法を活用

→**新たな課題の設定**へ繋げるため、活動を振り返る支援

協働し、思考を深める **整理・分析**

- ・子ども自身で情報の吟味・精選
- ・対話の充実
(子ども間、子どもと教師間)

→目的のための情報の整理や、考えを広げ深めるための支援

教師のファシリテート



教師は何をすればよいのか？

○探究的な学習における教師の役割

- 単元計画を作成する上での「テーマの決定」 ⇒ 教師が子どもたちに何を学んでほしいのか？
子ども主体だが，教師は何を学ばせたいか？
- 子どもたちの「声」を予測する準備 ⇒ 子どもたちは何を課題と置くのか？
子どもの観察・予測・準備が大切！
- 子どもの思考を引き出す発問の工夫 ⇒ 子どもたちは何をしたいと思っているのか？
- 子どもの「～したい」を可能にする手立て ⇒ 子どもの学ぶ意欲に応えられるか？
- 一人ひとりの声（つぶやき）を拾う ⇒ 教師は常に子どもたちの近くにいるか？

資質・能力の育成



評価はどのようにすればよいのか？

探究的な学習で身につく力と中学校区で育成を目指す資質・能力

- 探究する力 ⇒ 課題発見・解決力
- 様々な人達と協働する力 ⇒ 対話する力,
自己・他者理解力, 自己効力感 (各校)
- 自分の学びを見つける力 ⇒ 学びに向かう力

ルーブリックの作成

単元の評価規準（評価と指導の一体化より10項目の目標を作る）

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①「概念的な知識の習得」 ②「自在に活用することが可能な技能の獲得」 ③「探究的な学習のよさの理解」	①「課題の設定」 ②「情報の収集」 ③「整理・分析」 ④「まとめ・表現」	①「自己理解・他者理解」 ②「主体的・協働的」 ③「将来展望・社会参画」

校区内で共通して育成を目指す資質・能力を決め、単元の評価規準を作成

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
③「探究的な学習のよさの理解」	①「課題の設定」 ③「整理・分析」	②「主体的・協働的」

各校で共通して、重点的に育成をしたいものにルーブリック評価を作成

ルーブリックの作成

単元の観点別評価規準（指導と評価の一体化による10項目）

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>①「概念的な知識の習得」 自己実現に向けて、様々な進路選択、職業選択をすることが大切であることを理解している。</p> <p>②「自在に活用することが可能な技能の獲得」 自己実現に向けて、必要な情報を様々な方法を通して収集している。</p> <p>③「探究的な学習のよさの理解」 自己実現に向けて、自分の今と将来を比較しつつ、自分の将来について語ることができるが、自己探究をしてきた成果であることに気付いている。</p>	<p>①「課題の設定」 自分の将来を見据え、今の自分に必要なことを課題として設定し、解決への見通しをもって計画している。</p> <p>②「情報の収集」 自分の課題に対する解決策を情報収集し、情報を整理しながら進めている。また、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。</p> <p>③「整理・分析」 様々な手法から得た情報を精選し、比較・分析を行う中で、解決策のための情報を整理している。</p> <p>④「まとめ・表現」 自己実現に向けての課題を振り返る中で、自己分析ができている。その中、また新たな課題が見つかったり、自己の成長について表現したりすることができている。</p>	<p>①「自己理解・他者理解」 自己実現の探究活動の振り返りを通して自己の課題や成長に気付くことができる。また他者の探究活動を認め、自己の探究活動に生かそうとしている。</p> <p>②「主体的・協働的」 自己・他者との対話を通して得た学びをまとめ、表現しようとしている。また、他者の意見を通して、自己の探究を見直し、改善しようとしている。</p> <p>③「将来展望・社会参画」 自己の生き方、将来を考える中で、今の自分の課題を自分ごととして考えることで、自己実現を図ろうとしている。</p>

ルーブリックの作成

単元におけるルーブリック（校区で共通な身に付けさせたい力）

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>③ 「探究的な学習のよさの理解」</p> <p>A 自己実現に向けて、自己課題の解決は、自己探究をしてきた成果であることに気付き、新たな課題や新たな自分を形成しようとするができる。</p> <p>B 自己実現に向けて、自己課題の解決は、自己探究をしてきた成果であることに気付くことができる。</p> <p>C 自己実現に向けて自己課題の解決を、自己探究学習で行うことができる。</p>	<p>① 「課題の設定」</p> <p>A 将来の自分を想定した際、自分にとって必要な課題を多面的・多角的に捉え、解決への見通しをもって計画することができる。</p> <p>B 将来の自分を想定した際、自分にとって必要なことを課題として設定し、解決への見通しをもって計画することができる。</p> <p>C 将来の自分を想定した際、自分にとって必要なことを課題として設定することができる。</p> <p>③ 「整理・分析」</p> <p>A 様々な手法・体験で得た情報を精選し、比較・分析を行う中で、新たな課題を見出したり、解決策のために整理したりすることができる。</p> <p>B 様々な手法・体験から得た情報を精選し、比較・分析を行う中で、解決策のための情報を整理することができる。</p> <p>C 様々な手法・体験から得た情報を解決策のために整理することができる。</p>	<p>② 「主体的・協働的」</p> <p>A 自己・他者との対話を通して得た学びを整理し、比較・分析を行いながら、新たな課題を見出した。また、まとめへと繋げたり、表現することができる。また、様々な体験を通して、自己の探究サイクルを再構築することができる。</p> <p>B 自己・他者との対話を通して得た学びをまとめ、表現することができる。また、体験活動を通して、自己の探究サイクルを見直すことができる。</p> <p>C 自己・他者との対話から得た学びを自己探究のまとめへと表現することができる。また、体験活動を通して、自己の探究サイクルを見直すことができる。</p>

探究的な学習を意識した単元開発



単元開発に向けて、単元計画はどう作る？

単元（教材の決定）に大切なこと

- 目の前にいる子どもたちは何に興味・関心があるのか、「**子どもたちの興味・関心**」に目を向ける
- 単元の決定は「教師主導」になるが、教師が子どもたちに何を学ばせたいのか「**教師の想い**」をしっかりと教材に込める
- その教材を学ぶことで、これからの子どもたちのどんな資質・能力、成長に繋がっていくのか、「**教材の特性**」を理解する

単元計画の作り方

探究的な学習における「単元計画」の作り方 (探究サイクルを基に考え,作成する)

- ①課題設定 (子どもたちは何を学びたいと思っているのか?)
- ②情報の収集 (どうすれば, 課題を解決できるのか?)
- ③整理・分析 (情報を比較・分析するには?)
- ④まとめ・表現 (整理・分析した結果は?)
- ⑤ (新たな) 課題設定 (まとめたことによって, 生じた新たな疑問は?)

単元計画を作るときの視点

校区で大切にしてきた3つの視点

○子どもの声



- ・子どもの「学びたい」, 「知りたい」を課題に
- ・子どもの声を聴く（つぶやきを拾う・待つ）

○机からの脱却



- ・本やパソコンで分かる情報だけに頼らない
- ・校外や体験の中に本物につながる情報がある

○本物に触れる



- ・課題を自分事につなげる
- ・外部機関との積極的な連携

本物とは、児童生徒にとって「充実した活動」であり、「資質・能力の育成」を実現するもの



「子どもの声」を取り入れた授業実践

単元名 「地域活性化」 (福山市立引野小学校 6年生)

○引野小学校の児童数から引野町について考えよう



減り続けて、引野小学校が無くなってしまう。

「引野小学校の人数が減るという事は…」



引野町も人がどんどん減って合併して、引野町は無くなる。



児童数の推移グラフ

【単元課題】

引野町の魅力を発信して、たくさんの人に引野町に来てもらおう！

課題
設定

「子どもの声」を取り入れた授業実践

情報
収集

○引野町の魅力を調べてみよう！



パソコンで調べてみたらお店はある！引野の魅力ってそれだけなの？



実際に町を歩いてみよう。住んでいる大人にも聞いてみよう。



お店の方へのインタビュー

整理
分析



働いている人が素敵だから、お店が魅力的だと言えるのでは？
素敵な場所があるのに、知らない人が多いのはもったいないな。

「机からの脱却」を取り入れた授業実践

たくさんの人に知ってもらうためにはSNS (YouTube, Instagram) を使って魅力を発信しよう。

まとめ
表現



SNSで発信



子どもの「やりたい」を単元計画に入れることで、子どもたちの課題への向き合い方が変化し、積極的に行動するようになった。



子どもたちの「やりたい」が、目的につながるものか確認するため、活動前、活動中、活動後等に子どもたちと目的を共有する時間を設定した。

「机からの脱却」を取り入れた授業実践

単元名 「 未来に伝える『長浜の伝統』 」 (福山市立長浜小学校 6年生)

○地域の方の話を聞き、自分にできることを考えよう！

長浜音頭を守る盆吉の会の皆さんから、「『長浜音頭』を踊れる人が年々減り続けている。小学生が踊れるように広めて欲しい」とミッションを頂きました。



盆吉の会の方からの話



全校で踊れるようにしたいので、まず踊りを教えてください。

課題
設定

【単元課題】

長浜学区の伝統「長浜音頭」を習得し、秋フェスティバルで全校に広めよう！

「机からの脱却」を取り入れた授業実践

○思いを受け継ぐ準備をしよう！



踊りの指導

下級生に伝える前に、実際に保護者の方・学区の先生方に教える体験を通して、新たな課題が見つかりました。

分かりやすく伝えるためにどうしたらいいかな？

踊り方の説明書，動画などの資料の改善，練習方法や練習時間について話し合い，休憩時間等を使い，全校に伝える活動を行いました。

情報
収集

整理
分析



「机からの脱却」を取り入れた授業実践



練習時間確保のため、休憩時間を利用しよう。
丁寧に分かりやすく教えるために、グループを細かく分けて教えよう。



秋フェスティバル

秋フェスティバルでは、全校・地域の方と一緒に運動場で手作りうちわをもって「長浜音頭」を踊りました。盆吉の会の方から、感謝の言葉を頂きました。



次は今度入学してくる子たちにも広めたいな。



まとめ
表現

課題
設定



実際に地域の方から話を聞き、一緒に取り組むことで、子どもたちが自分事として課題を持つことができ、試行錯誤しながら取り組むことができた。



つきたい力を明確にし、単元計画を立てるが、子どもたちの実態から、目的の達成に向け、活動の内容や順番を臨機応援に変えていく必要がある。

「本物に触れる」を取り入れた授業実践

単元名 「 自己実現 」 (福山市立一ツ橋中学校 3年生)

○将来の自分に対して、今の自分には何が必要なのかを考えよう！



僕は将来何がしたいのかなあ。
仕事って調べてもよく分からないなあ。

何がしたい？どうすれば
自分に繋がられる？



【単元課題】 自分の将来を本気で考えるには何が必要なのか？



- ・直接働いている人に話が聞きたい。
- ・その会社に行き、体験したい。
- ・高校や大学を訪問し、通学している人に話を聞きたい。 など

課題
設定

「本物に触れる」を取り入れた授業実践

情報
収集

○本物に触れよう！自分ごとに繋げよう！

- オンライン対談（プロバスケ，警察，俳優，看護師，建築家）
- 学校で対談（社長業）
- 修学旅行（立命館，理容・美容専門学校，デザイン専門学校）
- 修学旅行（京都企業訪問，京都体験学習）
- メールで質問（カープ選手）
- 企業訪問（福山市17か所訪問）
- 高等学校説明会

子どもの知りたいに答える！



外部連携の充実！



◇質問一覧（中回答選手：飯倉選手、栗林選手）

1. いつごろから野球選手を目指し始めましたか	飯倉 中学から高校に上がる時。
栗林 小学校3年生、野球をやり始めてプロ野球を目指しました。	
2. 練習方法やメンタル面で続けていることはなんですか	飯倉 しっかり食べてしっかり寝る！
栗林 キャッチボールの最初の3球は決まった形で投げること、ルーティーンを多く作って心を整える。試合前はうどんを食べる、5回にバナナを食べる、など。	
3. 野球を通してどのような人間性を身に付けることができますか	飯倉 チームスポーツなので、仲間意識や人とのつながりを大切にすることができ、人の輪もできた。
栗林 上下関係、苦しい時にも仲間のみんなと頑張ろうという気持ちになった。	

メール，オンラインや直接お会いしての対談など

「本物に触れる」を取り入れた授業実践

整理
分析

まとめ
表現



実際に話を聞くと、自分が調べたり、考えたりしたことと違っていた。就職や進路を決めた際には、どの方も、しっかりと自分と向き合うことをされていた。



自分の将来について考える時に必要なことは、「自己理解」と「他者理解」だと感じた。自分を知り、人や物を知ることによって、将来に繋がることなど価値観を広げることができた。



話を聞きたい外部の方から聞くことで、新しい価値観に触れ、より深く自分の進路について考えることができた。



一人一人が本物の情報に触れるために、子どもをつぶやきや一人一人の考えを大切に、希望が叶うよう様々な機関に働きかける必要がある。

3年間のまとめ

探究的な学習を**成功**させるには

わくわくするようなテーマ（単元）設定

子どもたちの声を中心とした授業展開

机からの脱却を取り入れた単元の工夫

本物に触れるための外部連携の充実

これからの探究

- 校区内での交流を継続させる
- 単元計画を作るとき、3つの視点を大切にする
- ルーブリックを児童生徒たちと共有し、生徒たちが、
資質・能力の向上を意識できるようにする。
- 児童生徒の資質・能力のさらなる向上において、
他教科との横断的な視点を取り入れる